

言葉による見方・考え方を主体的に働かせる授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は単元の例と対応

- ① 指導事項に基づいて単元の目標及び評価規準を設定し、学習課題等との整合を図る。【ねらい】
- ② 学習課題の解決に向け、見通しをもち、粘り強く試行錯誤を重ね、資質・能力を育成することができる適切な言語活動を構想する。【言語活動】
- ③ 言葉による見方・考え方を働かせ、互いの思いや考えを広げたり深めたりすることができる学習活動を工夫する。【言葉による見方・考え方】
- ④ 学習の系統性を踏まえ、既習事項を想起し、活用できる場面を適宜設定する。【既習事項】
- ⑤ 単元の学習課題の解決に向けた学びの進捗状況を自覚でき、次の学びへつなげられる振り返りの場面や方法を工夫する。【振り返り】
- ⑥ 目的に応じ学校図書館の機能やICTの特性を活用する場面を、単元の学習過程に意図的・計画的に設定する。【学校図書館・ICT】

言葉による見方・考え方を主体的に働かせ、思いや考えを広げたり深めたりする単元の例

小学校第4学年 C 読むこと エ 教材名『ごんぎつね』

単元名

「読んで感じたことや考えたことをまとめよう」
～登場人物の気持ちの変化を具体的に想像する～

単元名には、「本単元における課題解決的な言語活動」と～単元で育成を目指す資質・能力～を記載します。

- 1 単元の目標（一部）
登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。【思考力、判断力、表現力等】C(1)エ
- 2 本単元における言語活動
物語を読んで、理解したことに基づいて、感じたことや考えたことを文章にまとめる。
(育成を目指す資質・能力との関連：C(2)イ)
- 3 単元の評価規準【思考・判断・表現】
「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)

4 単元の流れ

時	学習活動	指導上の留意点
1 2 3	○初発の感想を書き、紹介し合う。 ○学習課題を確認して、学習の進め方の見通しをもつ。	・必要感のある学習課題を考えられるように、疑問点などについて書くよう指示する。 学習課題は、児童任せではなく、教師が育成を目指す資質・能力を踏まえながら、児童と共に設定することが大切です。
4 5 6 7	○ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面について、考えをまとめる。 ○アの場面のごんと兵十の様子や行動、気持ちを想像する。 ○イの場面のごんと兵十の気持ちの変化を考える。 ＜予想される児童の姿＞ □兵十が火縄銃をばたりと取り落とししたのはなぜかな。 □「取り落とす」とあるから、ひどくびっくりしているね。 □取り返しのつかないことをした深い後悔の気持ちなのは。 ○ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについて、考えを交流する。	・想像したごんと兵十の気持ちと、根拠となった言葉や文とを関連付けてノートにまとめるよう指示する。 ＜考えをまとめる際に取り上げる二人の気持ちが大きく変化する二つの場面＞ ア ごんがつぐないを始める場面 イ ごんが兵十に撃たれてしまう場面 ・ごんと兵十の気持ちを想像するために、表情やしぐさなどを想像しながら読むように適宜助言する。(下線は、第1、第2学年の指導事項)④ 予想される具体的な児童の姿を明確にすることで、自身の授業づくりが適切かどうかを客観的に確認することができます。 ・気持ちの変化を考えるために、行動や会話、場面の状況を表す言葉に着目するよう助言する。 ・文章作成ソフトのコメント機能を使用して、お互いの意見や感想を伝え合い、参考になったことをまとめるように指示する。 →コメントの意図を友達に随時尋ねるなどして自分の文章を吟味する(児童) →個別指導やフィードバックに生かす(教師)
8 9	○初発の感想を振り返りながら、物語を読んで感じたことや考えたことを文章にまとめる。	・これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことを生かして、感じたことや考えたことをまとめるように指示する。 ・初発の感想等を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書けるように、既習内容と結び付けて考えるよう助言する。⑤

◇授業づくりで確認する視点

- 児童が行う言語活動を教師が事前にシミュレーションすることで、次の視点を確認でき、適切な指導につながります。①②
- ◇資質・能力を身に付けるために有効な言語活動か
- ◇その言語活動を通して適切に評価することができるか
- ◇育成を目指す資質・能力と設定した学習活動が整合しているか
- ◇授業のどの場面で児童のどのような姿を見取ればよいか
- ◇児童にとって必要感のある適切な学習課題であるか

◇授業づくりで意識する視点

- 学習活動における児童の反応や気付き、「問い」などを想定することで、次の視点を意識でき、適切な発問や支援の具体を考えることにつながります。③
- ◇課題解決につながる「言葉による見方・考え方」を働かせるであろう場面はどこか
- ◇「言葉による見方・考え方」を働かせている児童の具体はどのような姿か
- ◇予想される姿につながる学習活動や発問は適切であるか
- ◇「問い」を引き出すための教師の支援は適切であるか

ICTの活用と書写指導とのバランスが大切です。ICT端末の効果的な活用の一つに、考えたことを表現・共有する場面が考えられます。文字を正しく整えて書けるように指導する重要性を踏まえつつ、鉛筆で書いたノートをICT端末で撮影、蓄積などして、表現の改善に生かすなどの工夫が考えられます。⑥

＜学習評価については、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』p68～73 事例4 参照＞